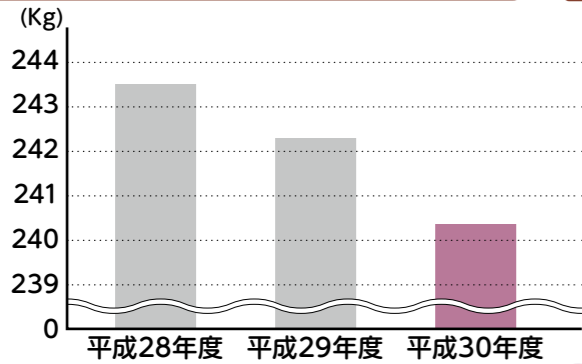


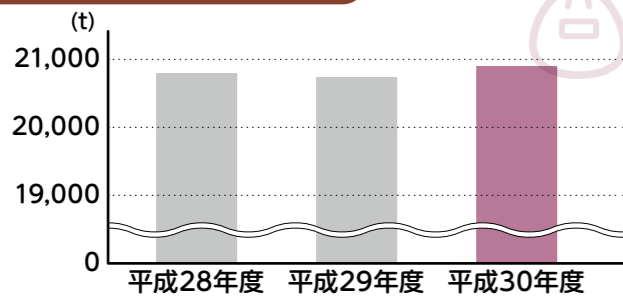
## 市のごみの排出量の変化



可燃ごみの一人当たりの排出量



ごみの総排出量



平成28年度から平成30年度までの直近3年間では、一人当たりの可燃ごみの排出量は減少していますが、人口の増加などにより市全体のごみの総排出量は増加しています。市全体のごみの量を減らすためには、一人一人がごみの分別に取り組んでいく必要があります。

### 市内のごみの排出の現状と課題

平成17年1月に福津市が誕生してから、今年で15年が経ちました。合併当時と比べ、人口は1万人以上増加し、現在でも増え続けています。市民の一人当たりのごみの排出量は少しずつ減少していますが、それ以上に人口が増加していることにより、ごみ

の総排出量は増加傾向にあります。持続可能な開発目標であるSDGsの推進への気運が世界中で高まる中、ごみの減量とともに、適切な分別と資源の再利用の重要性がますます高まっています。毎月1回、自治会ごとに決められた日曜日に行われる地域分別収集。ここで回収されたものは古賀清掃工場に運ばれ、可能な限り再利用されます。これは、ごみを減らし、

リサイクルを進めるためにも大切な取り組みです。ただ、最近では分別収集にもさまざまな課題が見られるようになってきました。その一つとして、地域の高齢化が進んだことなどにより、分別収集の利用が難しくなる人がいることが挙げられます。「年をとって足腰が弱くなり分別会場までごみを持っていくことが難しい」「家の整理や片付けをした際に出てくる粗大ご

「おはようございます」。ある日曜日の午前8時。宮司3区運動広場の一角に25人ほどの円陣が組まれ、何やらおそろいの服を着た人もいます。その中から元気な明るい声が響き渡ります。声の主は宮司3区自治会の佐藤隆信さんです。あいさつの後、作業の流れなどが説明されていきます。「今日は臨時収集が19件入っています。いつもどおり安全面には気を付けて活動してください。ではよろしくお願います」。地域分別会場に集まっているのは「チーム53」の皆さん。宮司3区の有志の人たちが集まって結成した、地域分別収集の利用が難し

### 宮司3区自治会のチーム53の取り組み

みを出すことが困難だ」という声が、地域から少なからず上がるようになってきました。この問題を解決する一助になるのが、ごみを出すことが困難な人を地域で支える取り組みです。この問題を改善していくために立ち上げられた団体の取り組みを紹介します。



▲作業内容を確認するチーム53の皆さん

い人を支援するためのボランティアチームです。佐藤さんはこのチームの隊長をしていて、この円陣は朝礼のために集まっていたのでした。おおよそ20年前、地域に一人暮らしの高齢者が増え始め、地域分別収集にごみを持っていくことが難しい住民が増え始めていました。これを心配した地域住民の数人が、戸別訪問によるごみの回収を始めたことがきっかけでチーム53が発足しました。そのおおよそ3年後から正式に活動を始め、当初はわずか4人だった人員が、現在では44人が登録。30代から70代の幅広い世代が常時20人程度で活動しています。

# 地域で支え合う

# 分別収集

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任



分別収集はごみの減量化や再資源化のために重要な取り組みです。けれども、地域の高齢化が進むことで、地域分別会場にごみを持っていくことが難しくなる人もいます。今回はそのような人をサポートする地域の取り組みを紹介します。

問い合わせ 市うみがめ課 ☎62・5019

▲宮司3区で行われている地域分別収集

## 回収作業は まさに重労働

チーム53の支援の対象は、同居家族のいない75歳以上の高齢者と障がいのある人です。毎年、春に支援の希望を申し



- ①トラックにごみを積み込むメンバー。一人では抱えきれないものもあります
- ②リヤカーにごみを積み込むメンバー。古紙などの回収も行います
- ③トラックいっぱいになったが、この後は積み下ろしがあります



出てもらいます。その名簿を基に事前に訪問する人を決め、現在では33人が利用しています。

また、臨時収集というかたちで事前に連絡をもらったり、地域分別収集当日に依頼を受けた人などを追加で10

人ほど支援することもあるそうです。宮司3区の地域分別収集の時間は90分。その限られた時間内で40人以上のごみの排出をサポートすることはかなりの重労働です。

作業時は、トラック部隊とリヤカー部隊に分かれて、事前に確認しておいた訪問ルートに沿って回収していきます。リヤカー部隊は3人ですが、トラック部隊は7人で回るため、数人がトラックの後ろを自動車に乗ってついていきます。目的地に到着すると、家の前に置かれていたごみを次々と回収していきます。積み込みなかつた分は、そのまま手に持って、分別会場まで運んでいきます。会場に到着すると積み降ろし作業が待っています。特にトラック部隊の訪問ルートには、とても1人では持ち運べないような重いものもあり、数人がかりで積み降ろし作業を行います。これを何度も繰り返していきます。また、ごみを運ぶだけでなく、時には家庭での分別作業を手伝うこともあるそうです。なぜ、このように大変な活

## 地域の人の感謝や喜びが 活動の原動力

動を続けられるのか、チーム53の皆さんに聞きました。

地域分別収集にごみを出すことが難しい人の支援を続けられる理由を聞くと、チーム53の皆さんは「いずれば私たちも助けてもらう立場になるし、困っている地域の人を何か手助けしたいという気持ちで動いている」と語りました。支援を依頼している人たちに話を聞くと「取り組みが始まった当時から利用している。本当に助かっている」と口をそろえて感謝の言葉を語りました。中には、お礼の手紙をくれる人もいます。利用者の皆さんから感謝されることや、喜ばれることが、取り組みを継続する原動力になっているようです。

## 「ごみの回収だけではない 地域の見守り隊」の役割

実はチーム53には、ごみを回収していくという以外に、もう一つ大切な目的があ

ります。それは、訪問先の安否確認です。

玄関先にごみが出ていなくても「〇〇さん、いますか」と声を掛けていきます。声を掛けても応答がない、1カ月以上ごみが出ていないなど、訪問先に気になる点があれば、地域の民生委員に連絡します。初めて訪問する家などは不審に思われることがないように、民生委員と訪問します。また、チーム53のユニフォームは、地域の人に認知されてきているので、これを着て訪問すれば、訪問先の人の安心感が高まります。さらに「この人がいてくれるのがとても力になる」と、佐藤さんから信頼されている、元民生委員の永田和子さんの力もとても大きいそうです。持ち前の親しみやすさを生かして、訪問先では世間話を交えながら、さりげなく住民の様子を気遣う言葉を掛けていきます。少しの変化に敏感に気付く力は、まさに元民生委員ならではの。このように、チーム53はごみの回収の支援を通して、地域の「見守り隊」のような役割も担っているのです。

## 地域のつながりを 大切にしたい

宮司3区自治会長である本間厚さんもメンバーの一人です。「現役時代は地区とのつながりがなかったが、チーム53に入ってからつながりができた。定年になってから一層、地域とつながりができた」と本間さんは語ります。

宮司3区は歴代の自治会長をはじめ、さまざまな人が、多彩な活動を通して、ボランティア精神と結束力を高めるために「地域のつながり」にとっても重きを置いています。活動の一端を紹介するだけでも「サンクスタイムズ」という広報紙の作成、俳句教室や健康体操教室、餅つき大会などを開催したり、子ども会と協力して高齢者に手紙を配ったりするなど、数えればきりがありません。本間さんは「地域の顔の見える関係が大切だ」と語ります。昨年チーム53にもボランティア活動に関心のある2人の新規メンバーが入会したそうです。



▲チーム53のメンバーの永田和子さん(左)、本間厚さん(中央)、佐藤隆信さん(右)

## 広がりをもてる 地域分別収集の支援

最近、チーム53と同じような取り組みを始めた自治会があります。若木台6区自治会では、昨年の10月から、地域分別収集にごみを出すことが難しい人の支援を始めたそうです。若木台6区では最近、子育て世代も増えてきていますが、65歳以上の高齢者が区の人口に占める割合は4割を超えています。

自治会長は「地域住民の意見や要望があり、高齢者の支援が必要だと考え、まずは試して始めてみた」と語ります。現在の利用者は高齢者が住む5世帯前後。地域分別収集の

## 住み続けられる まちのために必要なもの

利用者からは「助かる」と感謝されるそうですが、自治会長によると「いつか自分もつらくなつたときに世話になるかもしれないし、このような活動は助け合いのひとつで、何より大切なこと」という思いで、行っているとのこと。このように市内では地域分別収集の利用が困難な人を地域で支える取り組みが広がりを見せています。

令和元年12月末時点で、市内全体の高齢化率は27・6%となっています。これは、市民の4人に1人以上が65歳以上の高齢者であるということになります。高齢化率は自治会によって異なりますが、50%を超えているところもあります。今後はそれぞれの自治会で地域分別収集を利用することが難しくなる人が増加

していく可能性があります。高齢になつても住み慣れた場所です。最近では、高齢者向けの外出支援や介護予防の取り組みも行われているところがあつた。地域の支え合いの力が、住み続けられるまちのために重要なのです。

しを地域で支える仕組みが必要。最近では、地域で高齢者のための外出支援や介護予防の取り組みも行われているところがあつた。地域の支え合いの力が、住み続けられるまちのために重要なのです。



▲取材時に活動に参加していたチーム53の皆さん